令和元年度 月刊 校長通信５号

（生徒・保護者版）　Ｒ1.8.28（８月号）

俊英NOW

●男子ソフトテニス宮崎インターハイ出場

団体男子は、１回戦山梨県代表の笛吹高校と対戦、３－０で勝利しました。２回戦は、岡山県代表の強豪校岡山理科大付属高と対戦し全力を尽くしたものの１－２で惜敗しました。個人戦香山・三嶋ペアも１回戦を突破し、２回戦まで進出しました。今回の経験を継承し、今後さらに活躍してくれることを期待します。

●宮崎秀一先生、農業を語る。

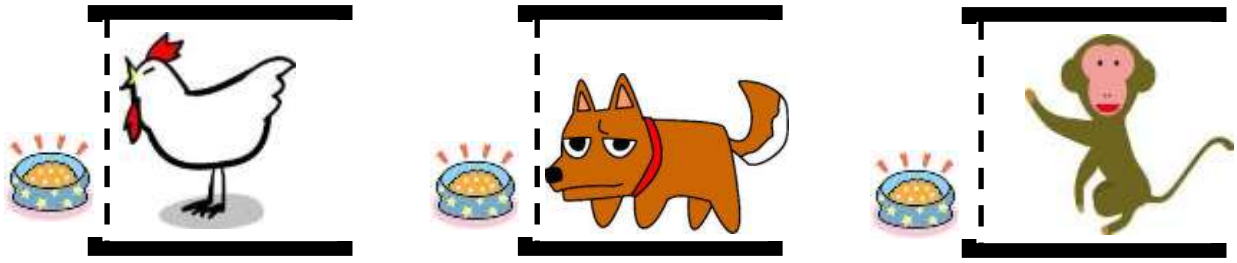
国語科宮崎先生は、篠ノ井塩崎で農業にも従事され、営農相談員として農業指導にも当たっています。「長野市農業公社」のＨＰに出演し、『野菜の「教育」に魅せられて』として農業への思いを語っています。

●戸谷萌嵩先生挙式

英語科戸谷先生は、昨年８月、すでに入籍していましたが、今月 11 日あらためて結婚式をあげられました。おめでとうございます！

校長ESSAY（２学期始業式の話＋α）

発想の転換　－イヌ君と宮崎市定先生に学ぶ－



いつかテレビでこんな実験を見ました。ニワトリとイヌとサル、それぞれを箱に入れます。箱の一面は金網になっていて、その反対側は開いています。そして金網の前にエサを置きます。さて、ニワトリとイヌとサルはそれぞれどうするか、という実験です。

ニワトリは、金網に向かってひたすら進み続け、結局エサにありつけません。イヌは、金網に猛然と突進、何度か体当たりを繰り返しますが、突然ハッと我に返り、開いた後ろの出口から迂回、エサを食べることができました。そしてサルは、迷わず最初から開いた出口を出て、平然とエサを食べたのでした。この実験はそれぞれの知力を試そうとするものですが、私が注目したいのは、イヌの状況に現れた「ものが分かる」という瞬間です。課題に直面したこのイヌのようにハッと我に返って状況全体を見直し、発想を転換することができるかどうか、これが問題を解決するカギになるのです。

ここで突然話が変わります。『論語』は、儒学の祖、孔子先生の言葉を記録したものですが、所々、理解不可能な部分があり、古今の論語学者たちが苦心惨憺、さまざまな解釈を試みてきました。たとえば、『論語』衛霊公編に、次のような一節があります。

「子曰、君子謀レ道、不レ謀レ食、耕也餒在二其中一、学也禄在二其中一、」

（子曰く、君子は道を謀りて、食を謀らず。耕すや、餒え（＝飢え）そのなかにあり、学ぶや禄そのなかにあり。）

「先生はおっしゃった。優れた人格者は、人間の道を追求すべきで、日々の食い扶持を求めるべきではない。耕せば、自然と飢えるように、学べば自然と稼ぎがあるものだ。」

これは、わけの分からない文です。特に下線の、「耕すや、餒えその内にあり」の部分が分かりません。「耕すことによって飢えが生まれる」・・・・・はて？いったい何のことやら。ここにはどんな深い思想が込められているのでしょうか。

ちなみに平凡社の『中国古典文学大系』では、次のように翻訳されています。「たとえ自ら耕したとしても飢えるときは飢えるものだ。たとえ学問にのみ熱中したとしてもいつかは職の授かる時も来る。」‥‥はぁ？何じゃこりゃ、さっぱりわけがわからん？？？

宮崎市定（1901-95）という日本を代表する東洋史学者は、この部分についてあっさり、これは『論語』の本文が間違っている、と言いました。まさに発想の転換です。（宮崎市定『論語の新しい読み方』岩波現代文庫）宮崎市定先生いわく、「餒」は、「飢え」の意味だが、これと似た漢字に「餧」がある。これは「食物」の意味である。おそらくオリジナルの『論語』は「餧」が使われていたのだが、書き写しを繰り返すうちにどこかで「餒」と写し間違えたのだろう、と。

なるほど、そう考えれば、すべてのつじつまが合います。「耕せば、自然と食物が生まれるように、学べば自然と稼ぎがあるものです。」これですっきりします。ここに述べられているのは、深遠な思想でも何でもなく、万人に当てはまる説得力のある常識なのです。難解な解釈をこねくり回すより、一瞬の発想の転換が新しい発見を生むこともあるのです。

イヌの実験と宮崎市定の論語解釈に事例をとって、発想を転換することの重要性を述べました。発想を転換するためには、これまでの状況を見直すという把握力、新しいやり方を生み出す柔軟性、そして何より、今までやってきたことをやめる勇気が必要です。それは決して簡単なことではありませんが、それが新たな挑戦への第一歩なのです。皆さんの挑戦に期待しています。